

白樺高学包括連携協定事業（2学年）総括（案）について

- 1 目 的 議会活動の認知度向上を図ること。
- 2 事業内容 議会体験（各クラス2本のシナリオを基にした議場体験）
- 3 場 所 芽室町議会議事堂
- 4 日 程
 - (1) フィールドワーク（議会体験）
AM：10時10分～11時10分、PM：13時40分～14時40分
令和4年7月15日（金）AM 2年B組（22名）
7月15日（金）PM 2年A組（22名）
7月19日（火）AM 2年C組（35名）
7月21日（木）AM 2年D組（35名）
7月21日（木）PM 2年E組（36名）
8月22日（月） 予備日
8月23日（火） 予備日
 - (2) 白樺高校作成実施要領 別途作成
 - (3) フィールドワーク・シナリオ 別紙
 - ① 一般質問（街路灯設置）、条例改正（自動販売機料金改定）
 - ② 一般質問（スクールバス増便）、条例制定（高校生応援給付金）
- 5 議会受入体制（役割分担）
 - (1) フィールドワーク（議会体験）（出席者及び人数は委員会に一任）
令和4年7月15日（金）総務経済常任委員会
7月19日（火）議会運営委員会
7月21日（木）厚生文教常任委員会
- 6 実施事業振返り
 - (1) 学校の意見・感想
別途学校に確認

(2) 議会の意見・感想

- ・目的に沿った取り組みができた。
- ・コロナ禍の影響により事前学習から時間が空き、内容が生徒の記憶から薄れていたことは成果を向上させるうえでは残念であった。
- ・クラスごとの議場体験が2回となり、経験が増えたことは良い点。

(議運内の意見)

7 今後に向けて

(1) 学校の課題・展望・方向性

振り返りを踏まえ別途学校に確認

(2) 議会の課題・展望・方向性

振り返りを踏まえ別途協議

8 総括

学校法人白樺学園白樺学園高等学校と芽室町議会の包括連携協定書

学校法人白樺学園白樺学園高等学校（以下「甲」という。）と芽室町議会（以下「乙」という。）は、次のとおり包括的な連携協定（以下「協定」という。）を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲と乙の人的、知的資源の交流、活用を図ることで、双方の活動の充実・発展に資することを目的とする。

（連携事項）

第2条 甲と乙は、前条に定める目的を達成するため、次の各号に定める事項について相互に協力することに努める。

- (1) 甲による乙の議員、職員、住民等を対象とした学習機会の提供
- (2) 乙の公の施設における甲の生徒を対象とした研修機会の提供
- (3) 乙が実施する事業への甲の教職員、生徒の参画
- (4) 甲の教職員と乙の議員、職員等との交流、研修
- (5) その他、甲乙で合意した分野における活動

（実施条件）

第3条 前項の事項を実施する際の実施条件及び実施方法、協力の形態、事業成果の利用条件等は、甲と乙がその都度協議して決定する。

（施設の利用）

第4条 甲と乙は、連携、協力するに際し、教員、議員、職員、生徒の相互派遣及び相互受け入れ、施設等の利用について、支障のない範囲において互いに便宜を供するものとする。

（経費の負担）

第5条 連携、協力に関する経費の負担については、甲と乙がその都度協議して決定する。

（協定の期間）

第6条 この協定の有効期間は、協定書締結の日から平成31年3月31日までとする。ただし、本協定の満了日までに、甲と乙の双方から特に申し出がないときには、さらに1年間更新するものとし、その後においても同様とする。

（補則）

第7条 この協定書に定めのない事項又は変更を要する事項が生じた場合は、甲乙協議の上、決定するものとする。

本協定の締結を証するため、本協定書を2通作成し、それぞれ1通を保有するものとする。

平成30年10月12日

甲 学校法人白樺学園
白樺学園高等学校校長 嶋野幸也

乙 芽室町議会議長 広瀬重雄

（原本直筆署名）